

三方良しの「SDGs」。最近では耳にする機会が多いコトバとなりました。環境や社会問題の解決に取り組む経営が求められてきています。

SDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



国連が採択した2030年までに達成を目指す世界共通の目標が「SDGs」です。それは、世界規模の課題を解決するための17の目標と169のターゲットです。地球上には解決すべき問題が山積しています。貧困、経済格差、気候変動、人種差別、性差別など、様々な問題・課題は、大別すると「環境問題」「社会問題」「経済問題」に集約できます。

国連がSDGsをつくらなければならなかったのは、人類が環境や人権を犠牲にして経済成長を追い求めてきたことで、地球にさまざまなひずみが出てきたためです。海洋汚染、大気汚染、地球温暖化、大規模な山火事など、環境破壊に関するニュースを目にすることが多くなっていますが、その影響を体感することは、そう多くないかもしれません。しかし、このままでは地球はもたなくなっています。地球で人類が安全に活動できる範囲「プラネタリー・バウンダリー(地球の限界)」を越えると回復不可能な変化が引き起こされます。地球環境はすでに一部で限界を越え、危機的状況に陥っています。

貧困問題を解決すれば、貧しかった人が購買力を持つことで市場拡大が期待できるのに、貧困問題を放置すれば、貧しい人が苦しい生活を続けなければいけないだけでなく、経済にとってもマイナスです。環境破壊がさらに進めば、環境からの恵みを受けられなくなり、マイナスはあってもプラスがないことは、言うまでもないことです。



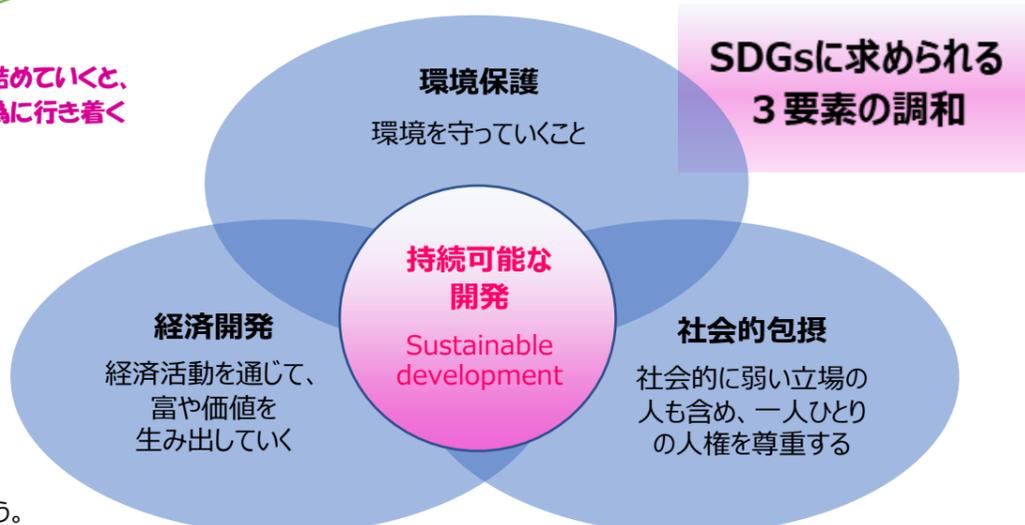
「持続可能な開発」とは、将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発のこと。「経済開発」「社会的包摂」「環境保護」の3つをどれも欠くことなく、調和の内にいかに並び立たせるかを考えなければならないのです。

社会の変化で変わってきた企業に求められること

たとえば、漁師が目先の利益を追い求めて乱獲すれば、一時的には莫大な利益を手に入れるかもしれませんが、数年後には資源は枯渇し、恵みを享受できなくなるでしょう。

そのような持続不可能なことをして得た利益が、本当の利益でしょうか。長い時間軸をもって物事を考え、

利益について考える必要があります。求められるものは時代とともに変化しますが、今後、SDGsに取り組むことが企業の持続可能性へとつながっていくでしょう。



まずはできることから

SDGsには17の目標があります。そのすべてに取り組むのが理想ですが、多岐に渡る目標が設定されており、また簡単に取り組めないような大きな目標もあります。SDGsを一つの事例として、「地球のために優しい事」「社会のために出来る事」を各々の考える身近な取り組みから始めてみてはいかがでしょうか。

弊社では個々の法令改正の事案内容や対処法、今後に準備を進めるべき項目などについてお客様からのご質問やセミナー開催などのご要望にお応えできる体制を整えております。お問い合わせ、ご質問などございましたら、お気軽に担当営業または弊社代表電話までお問合せください。(株式会社コーエイ TEL 082-234-7508)



